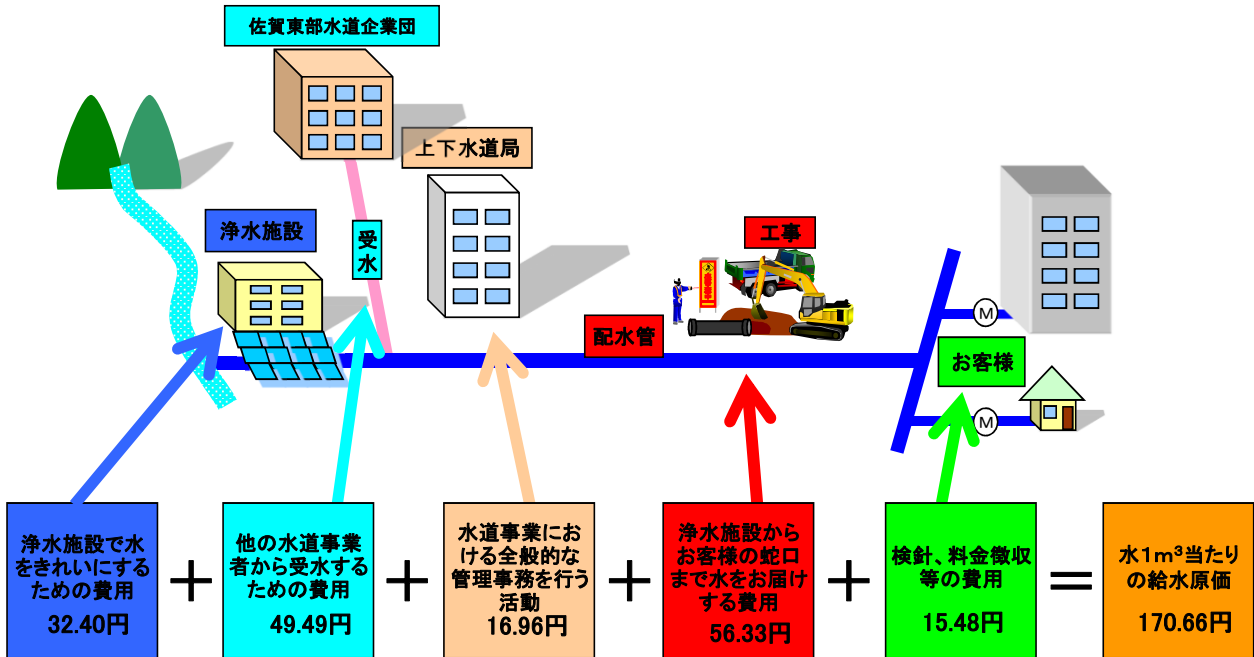


# ABC分析結果（水道事業） （令和元年度現在）

※令和元年度決算（平成31年4月1日～令和2年3月31日）数値より

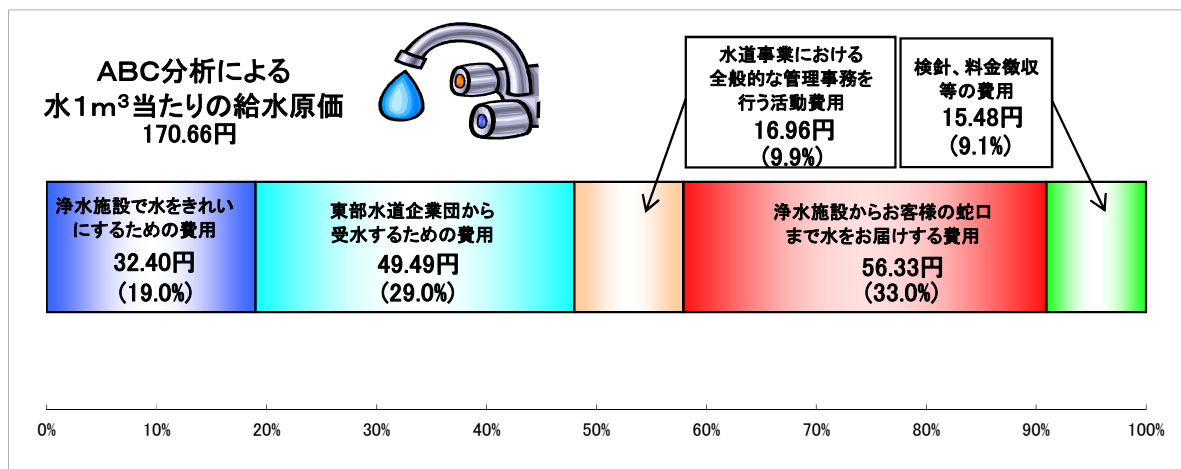
## 1. ABC分析のイメージによる結果



ABC分析給水原価(単位:円)

年間有収水量 19,565,972m<sup>3</sup>

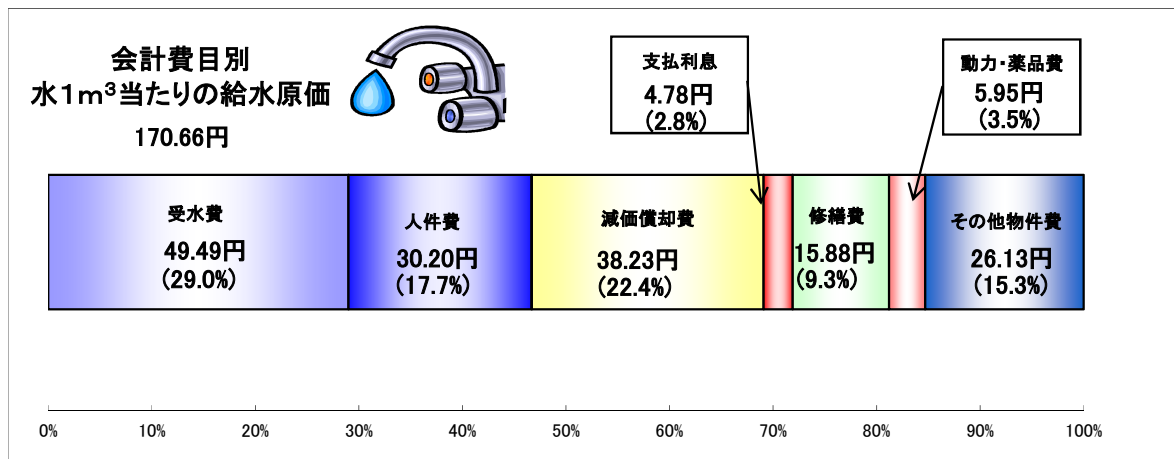
	給水原価(円)	税抜額(円)	割合
浄水施設で水をきれいにするための費用	32.40	633,964,574	19.0%
他の水道事業者から受水するための費用	49.49	968,285,792	29.0%
水道事業における全般的な管理事務を行う活動	16.96	331,830,158	9.9%
浄水施設からお客様の蛇口まで水をお届けする費用	56.33	1,102,270,176	33.0%
検針、料金徴収等の費用	15.48	302,807,684	9.1%
計	170.66	3,339,158,384	100.0%



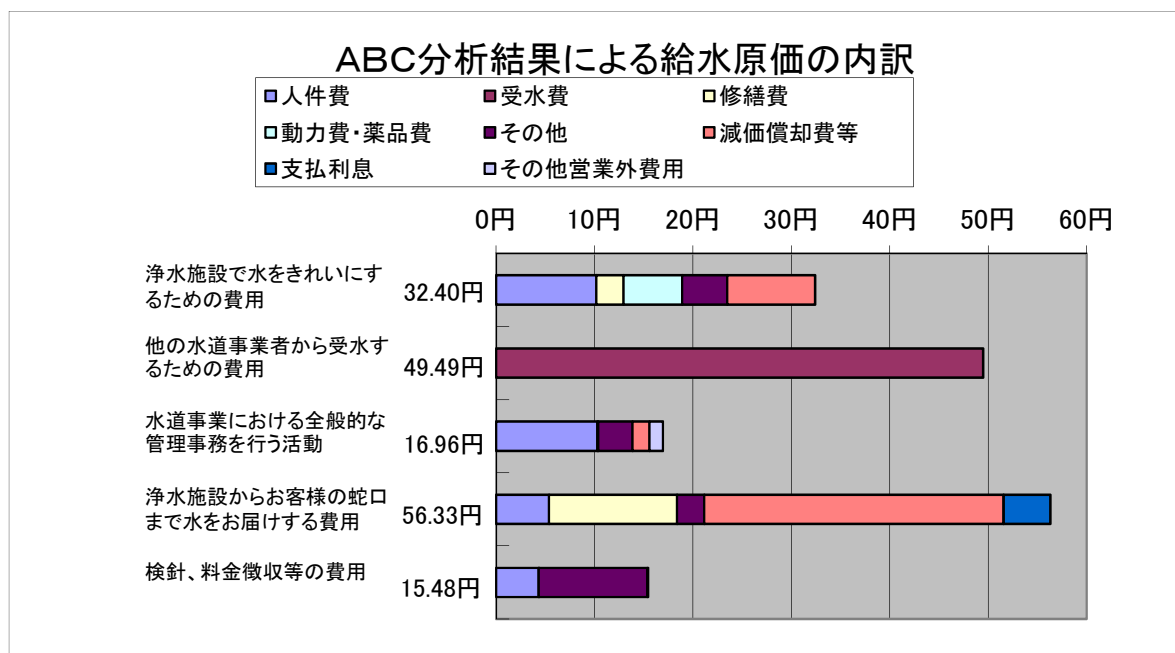
## 2. 参考

会計費目別給水原価(単位:円)

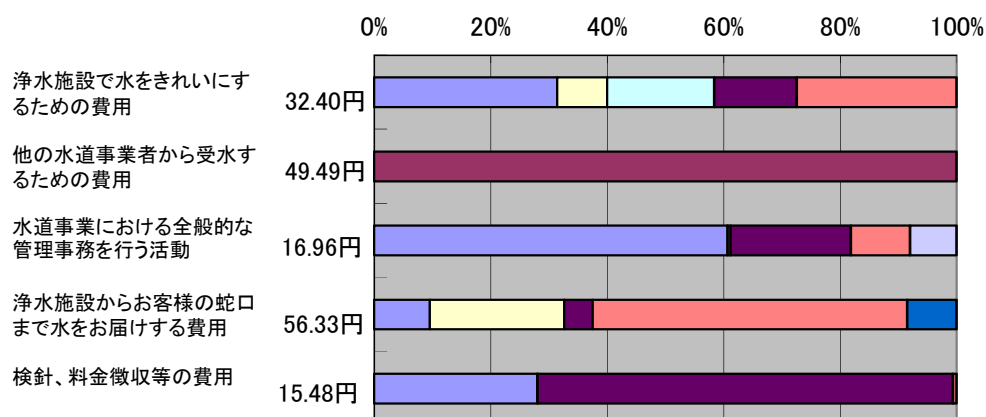
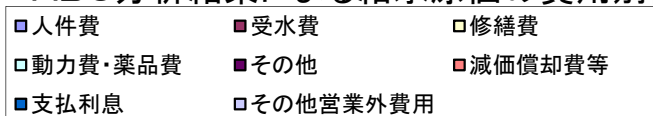
	給水原価(円)	税抜額(円)	割合
受水費	49.49	968,285,792	29.0%
人件費	30.20	590,939,855	17.7%
減価償却費	38.23	748,043,145	22.4%
支払利息	4.78	93,483,691	2.8%
修繕費	15.88	310,663,934	9.3%
動力・薬品費	5.95	116,393,610	3.5%
その他物件費	26.13	511,348,357	15.3%
計	170.66	3,339,158,384	100.0%



## 3. ABC分析グラフ



## ABC分析結果による給水原価の費用別割合



### 【分析結果】

給水原価は本年度170.66円で、「浄水施設からお客様の蛇口まで水をお届けする費用」が給水原価の33.0%、「浄水施設で水をきれいにするための費用」が19.0%と、これらの費用で全体の約半分(52.0%)を占めています。また、「他の水道事業者から受水するための費用」が29.0%となっています。

給水原価を構成する会計費目では、受水費(29.0%)や減価償却費(22.4%)、人件費(17.7%)の順で割合が高くなっています。

水道事業は「装置産業」と言われ、資産のほとんどが配水・給水施設(お客様の蛇口まで水を届けるための施設)や浄水施設(水をきれいにするための施設)で占められています。そのため、これらの施設に係る減価償却費や施設の維持管理のための人件費、修繕費などの割合が高くなります。

今後も、施設の老朽化に伴う改築・修繕経費や、耐震化などの災害対策経費の増加が見込まれますが、安全で安心な水道水の供給を途切れることなく続けていくため、「上下水道ビジョン」及び「水道事業経営戦略」に基づいた効率的な事業経営を進めていきます。